

【3.11津波災害で3県で唯一。被害がない村の謎に迫る！】



住所 岩手県下閉伊郡普代村9-13-2

期間 通年

人数 40人（班編成による）
※人数については要相談

時間 1時間（要相談）

金額 ガイド 1人について15,000円

アクセス 三陸沿岸道路 普代ICより2分

【内容】

東日本大震災津波災害により、人的被害、住家被害がなかったのは岩手県普代村だけ。過去の教訓を生かした防災対策が奏功し3.11では1人の犠牲者も住宅被害も発生しませんでした。

普代村の震災学習は当時の被害を物語るものではありません。被害が発生しなかった理由、過去の教訓をどう生かすか、主体的に学びます。

【学びのポイント！】

1. なぜ巨大水門が必要だったのか。将来にわたる持続可能なまちづくりについて考えます。
2. 水門を建設するための困難をどのように解決したのか。元村長の行動から課題解決について考えます。
3. 過去の教訓を未来に向けて生かす持続可能な取り組みについて、自分たちのまわりで何に生かせるか考えます。

お問合せ 普代村農林商工課(普代村9-13-2)

電話 0194-35-2115

サイト <https://www.vill.fudai.iwate.jp/kanko/index.html>

SDGs



事前学習 事前学習資料をご用意しています

I 普代村観光協会



【3.11津波災害で3件で唯一。被害がない村の謎に迫る！】

東日本大震災津波災害により、特に被害の大きい岩手宮城福島の被災3県で、人的被害、住家被害がなかったのは岩手県普代村だけ。過去の教訓を生かした防災対策が奏功し3.11では1人の犠牲者も住宅被害も発生しませんでした。

東日本大震災発生27年前、当時の村長「和村幸得」は、村の中心部を津波被害から守るため高さ15.5mの水門を建設しました。高さは東北最大級。建設当時、多く住民が建設反対でした。いつ来るかわからない津波対策に対し、莫大な資金がかかるからです。和村村長は、「2度あったことは3度あってはならない」と住民を説得し続け、ついに建設にこぎつけ、完成させました。

本村の震災学習は当時の被害を物語るものではありません。被害が発生しなかった理由、過去の教訓をどう生かすか、自分なら…。主体的に学びます。被害があるところないところを両方見ることでより学びが深まります。

1 貧困をなくそう



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



11 住み続けられるまちづくりを



13 気候変動に具体的な対策を



学びのポイント！

1. なぜ巨大水門が必要だったのか。将来にわたる持続可能なまちづくりについて考えます。
2. 水門を建設するための困難をどのように解決したのか。元村長の行動から課題解決について考えます。
3. 過去の教訓を未来に向けて生かす持続可能な取り組みについて、自分たちのまわりで何に生かせるか考えます。

プログラム

【事前学習】 現地体験の前に全体像をつかめる30分のアニメDVDにより事前学習が可能です。オンラインも可。その課題について考えます。

【体験学習】 実際に水門を見学。高さに驚き、震災当時の状況をガイドの説明を聞いて、当時の様子を学びます。

【事後学習】 まとめた内容と、もし自分が当時の村長ならどうだろうか、自分たちの生活で生かせることを、発表(オンライン発表会)し、課題解決能力の向上を促します。

震災学習は、震災を経験していない生徒、学生が増えてきます。被害があるところないところのふり幅がより深い学びにつながると思います。